

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1293600027		
法人名	社会福祉法人秋桜会		
事業所名	グループホームうさぎの家		
所在地	千葉県印西市小林1644-1		
自己評価作成日	令和5年1月25日	評価結果市町村受理日	令和5年6月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7
訪問調査日	令和5年4月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日光浴したい、散歩行きたい、〇〇を食べたい等、出来る限り本人の希望を尊重し叶えらるよう支援している。日々の生活の中で安心して笑顔で過ごして頂けるように寄り添って傾聴し、孤独に感じないようなケアに努めている。また、知人や家族とのつながりが保てるように、電話や手紙のやりとりの支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「うさぎの家」は、かよわいうさぎが安心して暮らせるような場所となることを意味しており、利用者が安心してくつろげる優しい介護を目指している。ホームが自分の居場所となるように、職員は笑顔でその人らしく過ごすことができる支援を大切にしている。夜中でも、不安に思う利用者には職員が寄り添い、意思疎通が難しい人にも常に笑顔で声かけをすることで安心してもらえるようにしている。また、家族の気持ちにも寄り添えるように努めており、ていねいに応対し、説明は分かりやすくすることを心がけている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	表玄関、裏玄関、スタッフルームに理念を提示し、理念に基づいたケアが実施できるように事業計画を作成し、会議を行い、全職員で取り組んでいる。	ホームの理念は「地域の中で、その人らしく、安心して暮らし続ける」で、職員の目に常に入る表と裏の玄関及びスタッフルームに掲示している。会議の中でも話し合うことで、全職員が利用者の意思を尊重し、家族の気持ちにも寄り添う支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方や家族が収穫した野菜を届けて下さる。現在、コロナ禍のため散歩時の直接の接触での挨拶はできないが、テラスの窓越しではあるが、よく近所の方が手を振って挨拶している。	ホームは地域の町内会に加入し、コロナ禍前は利用者と一緒に町の避難訓練に参加したり、祭りの神輿の休憩所としてホームの駐車場を提供したりして地域に貢献していた。現在はコロナ感染対策を取ったうえで、ホーム周辺の散歩時や窓越しで近隣の人と挨拶を交わすようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用相談は常に受け付けているが、コロナ禍の現在は、外部との交流は出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の職員、民生委員、町内会、老人会、家族代表の多方面の委員により、2カ月に1回開催しているが、参集出来ない間は書面開催している。	運営推進会議は、家族会代表、市職員、地区代表、元介護相談員を委員として、法人系列の事業所と合同開催を年3回、ホーム単独開催を3回実施している。書面開催の場合は、事前に議題・資料とともに質問・意見書を送付し、意見をもらうようにしている。	運営推進会議の議事録は家族に送付していない。議事録を家族に配布することや事故・ヒヤリハットを毎回の議題とすることなどで、よりホームの信頼性を高めるのではないかとと思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に、市の職員や長寿会会長に参加していただき、実情を報告している。(コロナ禍のため、書面開催にて報告することがある。)	市の担当課とはサービスの申請や認定調査でやり取りをしており、運営推進会議に高齢者福祉課長が参加しており、意見をもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の研修にて具体的な行為も全職員が正しく理解し、拘束、抑制をしないことが当たり前と認識して、実施している。日頃のケアの中で拘束に当たるものは、話し合い見直している。	身体拘束しないケアのために内部研修を実施している。研修後は職員にアンケートやワークシートを提出してもらい、理解度を確認している。スピーチロックなど、日々の支援の中で職員に不適切な言動があった場合はその場で職員同士で注意し合うほか、スタッフ会議でも話し合い、支援方法を見直している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で4回、身体拘束廃止委員会を開催している。内部研修で高齢者虐待防止の知識を高め、常に注意をはらい防止に努めている。(コロナ禍のため、書面開催にて報告することがある。)		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は内部研修などで制度について学ぶ機会があり、必要な時は活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定の際には、管理者が書類を開いて説明させていただき、不安や疑問なく理解し納得いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの要望にできるだけ応えるよう努めている。家族からの意見や苦情も随時受け入れている。満足度調査をおこない意見を推進出来るようにしている。	利用者からの意見や要望は、申し送りと個人記録に記載してホーム内で情報共有し、支援に活かしている。家族とも話しやすい環境づくりに努めているほか、毎年満足度調査で意見等を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談、スタッフ会議、管理者会議にて、現場の意見聞いたり、互いの課題を見出しているが、現在は、コロナ過もあり会議が出来ない時あり、書面開催し簡潔に口頭でも伝え、意見や提案を反映させている。	職員の意見や提案は毎月開催しているスタッフ会議で聞いているほか、日常業務の中や職員からの希望時に個人面談の時間を取り聞いている。職員からの提案で、週間業務や申し送りファイルの見直しをおこない、業務を効率化したことにより、利用者に関わる時間を増やせている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員の意見や提案に耳を傾け、常に職員の働きやすい環境に心を配り、職場環境、雇用条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の段階に合わせた講習、内部研修に積極的に出席してもらい、スキルアップに努めている。コロナ禍により内部研修のソーシャルディスタンスをもうけた研修、大人数の職員研修の際は、書面開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム大会(コロナ禍前)や、資格取得のための研修で同業者との意見交換や情報交換をしてサービスに活かしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に本人と面談により、要望や不安なことを聴き取り、その情報を全職員が共有し、個人記録にも記入している。その都度、安心でいるサービスを提供できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時に家族が困っている事、不安な事または要望を聴き取るとともに、密に連絡することで安心していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族との面談により、そのような支援を必要としているのかを見極め、ケアプランを立てている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることを可能な限り、していただき趣味を生かす作品作りやイベントなどの実施をしている。また、日々の暮らしの中、リビング内で利用者同士の会話がはずむ様、支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の前は、イベントの協力や外出受診にも付き添って頂くことがあったが、コロナ禍のため現在は、家族とは電話越しや窓越し面会を実施している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人との電話や、手紙のやり取りも支援している。現在、訪問は窓越し面会で協力してもらい、年賀のはがきのやり取りも家族と本人とで希望を添えるように協力して支援している。	利用者の馴染みの人や場所の情報は、契約時に利用者・家族から聞き取り、個人ファイルに記録し、スタッフ会議でもその情報を共有している。入居後は家族や友人との関係継続のため、電話やハガキの支援をしている。コロナ禍前の友人の来訪時には、お茶の提供などで歓迎していた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性を考慮しつつ、利用者同士が良好に関わり合える場面をつくるお手伝いをしている。万が一トラブルとなった際は、職員が互いの利用者さんに寄り添い傾聴するように努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その後の様子の生活を気にかけて、退所後も電話をくれ福祉用具や食器などの寄付して下さるご家族もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの気を配り、関心をもって会話をするように努めている。最近の会話もご家族と共有し、本人の思いや希望、意向を把握しケアプランにも反映している。	利用者の思いや暮らし方の希望は、日々の会話の中で聞き取ることを大切にしている。意思疎通が難しい場合も笑顔で話しかけるようにしており、利用者から聞き取った要望は、担当職員に伝えスタッフ会議でも話し合い情報を共有し、できることはすぐに対応するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の担当ケアマネや家族に、本人の生活歴や希望の暮らし方を出来るだけ詳しく聞き取っている。本人にも会話の中で希望を聴き、生活にとり入れるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活状況、心身の症状を把握し記録として残し、全職員が共有している。また、文面だけでは、伝わりづらい職員には口頭でも伝え把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各利用者に担当職員がつき、月1回モニタリングを行い、スタッフ会議でケアプランに入れている。また、本人、家族に説明し了承を得ている。	入所時に利用者や家族から聞き取った要望を基に作成した介護計画は、毎月担当職員がモニタリングをしており、職員の意見を聞きながら、介護支援専門員が介護計画とモニタリング表を作成している。定期的な見直しは年1回とし、訪問診療の主治医とも相談している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さな気づきを全職員で共有し、申し送りファイルを医療、生活、家族連絡に分けて、ケアに生かせるように努めている。必要に応じてケアプランの見直しも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	全員の利用者が24時間対応の訪問診療所を利用し急な体調不良にも対応できる。また、本人と家族の希望から訪問マッサージや訪問歯科を利用しニーズに応じて柔軟に対応している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、地域のイベントはあまり出ていない。テラス窓越しにて、神輿を楽しんで頂いた。法人のイベントの作品展は各部署時間をずらし、2、3名にて車で見に行くなど支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	9名とも全員が訪問診療所を利用し、24時間体制で医療が受けられるようになっている。常に、主治医、看護師と連携している。	現在利用者全員が訪問診療を利用している。訪問診療は月2回の診療で、訪問歯科も原則月1回訪問している。他の病院を受診する場合は、家族対応を基本としているが、家族の都合がつかない場合はホームで同行支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、看護職に日常の中での体調の変化や服薬の状態など報告、相談している。看護職は、体調の確認し必要に応じて主治医に相談し医師の指示のもと必要と判断された際は訪問診療を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ禍時、面会は受け入れていない。家族と病院の地域連携室と情報交換し、連絡・相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の希望を尊重し、重度化や終末期のケアの方針について、本人、家族、主治医と十分に話し合い決定している。また、家族の気持ち寄り添い希望時には、主治医と電話等を利用して直接説明受けられる支援もしている。	利用者が重度化した場合の対応については「指針」を基に契約時に利用者・家族に説明している。また、利用者が終末期と主治医が判断した際は、再度家族に希望を確認し、同意を得て看取り支援に入っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに基づき、急変時の対応にそなえている。現在、利用者全員が訪問診療所利用し、主治医となっているため、全職員に必ず報告連絡するように伝えている。また、内部研修も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災(日中・夜間)、地震の避難訓練をして消防計画に基づきおこなっている。現在、コロナ禍により地域での避難訓練の参加は行えていない。	今年度は夜間想定、地震想定、消防署立ち合いの避難訓練を実施した。定期的に避難訓練を実施することで、冷静に慌てず避難できるようにしている。アルファ米、保存食を3日分備蓄しており、事務長が一括管理している。事業継続計画は現在作成中である。	避難訓練では職員が地域の住民役をして実施しており、災害が発生した場合の近隣との協力関係の必要性はホームとしても認識している。近隣住民の参加が得られる協力体制を構築する取り組みを期待したい。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員には、内部研修している。スタッフ会議にて、一人ひとりの人格を尊重した声掛けの工夫や傾聴、損ねない声掛けを情報共有し支援に努めている。	ホーム内で大きな声で利用者の話をしないように心がけ、申し送り時はイニシャルで話し合うよう配慮している。職員に不適切な言動があった場合はその場で注意し合うほか、スタッフ会議で話し合い、職員全体で意識を統一するようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常のおしゃべりや話題をふり、本人の希望を聞き出せる声掛けを心掛けている。現在、コロナ禍のため感染予防に努め事前に電話予約にて窓越し面会して家族に会えるように支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や観察し気分を聞きながら、日光浴や体操に誘い気分転換している。一人ひとりのペースに合わせて希望に添えるようにしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	イベント等でメイクしたり、マニキュアを塗っておしゃれを楽しんでいただいている。日々の洋服を選びたい方には、天気の話をしながら服を決めている。訪問美容を利用しカットや髪を染めている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で収穫した野菜や家族から畑で取れた野菜で、会話の中でどんな料理で食べたいか等、要望を聞き食事に反映させている。また、誕生日などのイベントでは、本人が好きな物や食べたい物を提供している。	食材の購入から調理まで職員が交替でおこなっており、ホームの畑で収穫した野菜や家族から差し入れされた野菜も使って食事作りをしている。イベントや誕生日には利用者の希望を聞いて献立を作っており、季節ごとの行事食も提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に合わせて、適した量や形態で提供し食事量や水分量をチェック表を用いて把握している。ご飯が進まない方には、ふりかけ等を添えたり、水分が少ない方には温めたり、甘い飲み物を提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯の洗浄・歯磨きなど、利用者に合わせて口腔ケアを行っている。また、必要に応じて訪問歯科に利用している。			

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人記録チェック表を活用し、利用者さんの排泄時間をみて声掛けの工夫し排泄の支援をしている。立ち上がり動作時、さりげなく寄り添いタイミングを合わせた支援をしている。	個々の排泄記録を基に、タイミングを把握したうえで声かけ・誘導し、トイレでの排泄ができるように支援している。失敗した際には、利用者が安心できるような声かけをし、プライバシーにも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人記録チェック表にて排便の量、固さの把握、水分の量を確認もしている。水分が少ない方には、温かくしたり、甘い飲み物やゼリー等を提供し自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その時の気持ちに合わせて、体調をみて入浴時間や順番をずらしたりして提供している。また、女性には同性介助し安心して入浴していただいている。ゆず湯やバスソルトを提供もしている。	同性介助を基本として週2回とし、利用者の体調によっては時間をずらすなどして支援している。入浴を楽しめるように、バスソルト、ゆず湯、みかん湯などにしたり、入浴中の会話で利用者の希望なども聞いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れやすい方には、日中に昼寝時間をとり休息して頂いている。コロナ禍の為、合間で換気や濡れタオルにて乾燥防止、室温調節に努め、ユタポン使用し夜間心地よく、入眠出来るようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診や服薬変更時は医療記録に経緯や相談内容、副作用の際の対応を記入している。また、服用中の説明書をコピーし、全職員が回覧し薬の用法が分かるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	クリスマス会や誕生日会のイベントやリクエストのメニューを会話などで食べたいものを提供し、楽しく過ごせるように季節にあった作品作りを支援している。天気の良い日は、日光浴や室内では、体操や好きなテレビを見ていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナ禍の為、短時間にし感染予防しながら、暖かい日には野菜収穫。少人数に分けてドライブしている。現在は、コロナ感染の為外出はできていない。	車いす利用者も含めてホーム周辺の散歩をしたり、敷地内の畑で野菜を収穫するなどして外気に触れるようにしている。天気が良い日には、2、3名ずつ分かれてドライブにも出かけている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人に確認して、こちらでお金を少しお預かりしている方もいる。お金の心配事の際には、施設で保管していることを伝えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っていたいと希望される方には、携帯をもって頂いている。充電の支援しつつ、持っていることで安心して頂いている。また、友人にも連絡先や住所を伝え、電話や手紙の支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた手作りの壁飾りを貼ったり、作品作りしている。日光浴が好きな方には、テラスに出たり日当たりの良い席に案内している。寒いときは、ひざ掛けが使えるようにリビングに常備している。	リビングなどの共用空間は、温度、湿度の調節に配慮している。寒い時期には窓越しに日光浴ができるよう、いすやソファを配置し、季節の花を飾るなどしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者さんには近くに、静かな環境を好む方には、皆から少し離れた席に座っていただく等、個々の性格やその時の気持ちに沿った心地の良い居場所作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	布団で寝ていた方には、マットレスと布団で和式に近い環境の提供している。家族の写真やアルバムや手紙をいつでも見れるように自室に置いたり手の届く所にセッティングし支援している。	居室には、使い慣れた置時計やCDプレイヤー、家族の写真などが持ち込まれ、それぞれが居心地よく過ごせるような居室にしている。模様替えを希望する場合には、安全な動線を考慮したうえで対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋が分かるように、ドア付近にネームプレートを掛け、トイレにも「トイレ」と書いたプレートをかけている。廊下には手すりを設置し、安全に歩けるようにしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと